

日本国民のほとんどの人が銀行を利用している。今のようなマイナス金利の時代、銀行ユーザーは資産を増やすことよりも安全を求めて銀行を利用している。銀行で口座を開設すると、通常は紙ベースの通帳と磁気カードがもらえる。磁気カードには重要な個人情報が入っている。銀行のATMでお金を引き出す場合、他行へお金を振り込む場合など、通帳と磁気カードは必ず持参する必要がある。そして、自分がその通

パスワードの重要性

つとは限らない。利用ユーザーの数が現れてくると、当然PWの数も増える。その結果、「同じPWを使い回し」する人が出てくる。これは危険な行為とされている。

多くの銀行では、PWは4桁に設定されている。しかしこれが4桁より少ない、例えば2桁や3桁ではどうか。確かにユーザーにとっては覚えやすいし、ATMのタッチパネル入力も楽である。ところが桁数が少ないと他人に悟られやすく、盗み見されやすくなる。通帳、カードが第三者の手に渡り、しかもPWまで盗み取られてしまうと、後は第三者によって簡単にお金を盗られてしまうだけである。

安全性を高めるためにPWの桁数を増やすことは、銀行の管理システムの観点からみればさほど困難ではないだろうが、安易に桁数を多くすることも何かと問題がありそうだ。「他人に盗み取りされにくい」、「ユーザー本人にとって扱いやすい」の両方を考慮して、ユーザーの自己責任によりバランスのとれたものにする必要があるそうだ。

最近では、ネット銀行が盛んであり、ビジネスマンや若年層を中心に多くのネット銀行ユーザーがいると思われる。ある有名なネット専門銀行では、PWの桁数が自由に選択でき、最長32桁くらいまでのPWを設定することも可能なようだ。0から9までの数値以外に、AからZまでのアルファベット、「?」や「&」などの記号もPW内に組み込むこともできる。

安全性と 利便性の バランス

帳の持ち主であることの証明としてパスワード（以下PWと表現）を届け出なければならぬ。しかし、お金を預けている銀行はひと



名古屋経済大学
経営学部教授

吉川 伸一

よしかわ・しんいち ファジィデータ解析、SCMに関する基礎的研究。大阪府立大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。1963年生まれ。

4桁より多い場合はどうか。一挙に2倍の8桁ならばどうであろうか。桁数が多い場合には、他人に悟られにくい、盗み取りされにくいなどの利点はある。ユーザーにとっては、PWの入力は4桁よりも少し手間がかかるが、安心感が増えるだろう。ところがこれも問題がある。PWの桁数が多くなると、それを覚えることを苦手とする人も世間には存在するからだ。「長いPWを覚えきれない」といふ、PWは自己責任で厳重に管理することが重要である。自分で合った銀行を選

